

# 令和5年度 学校評価計画（中間評価）

石川県立金沢中央高等学校昼間制

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判定基準	評価	データ	分析と課題	備考
1	生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものとするとともに、ICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン等を推進することで学力向上を図る。	教務課	【成果指標】 ・生徒用端末を授業で活用したことがある教員数が増加している。	○生徒用端末を授業で活用したことがある教職員数が全授業担当者を分母として A 75%以上である。 B 70%以上75%未満である。 C 65%以上70%未満である。 D 65%未満である。	B	71.4%	・前年同時期のデータ50%よりは大幅に改善している。生徒用1人1台端末の授業での利用が確実に増加している一方、3割弱の教職員が、いまだ未使用であることも問題である。今後は相互研鑽などを通じて利用の定着を図りたい。	○5月、2月に調査
	○教職員が、学習習慣を定着させる指導及び、授業の出席を促す指導を徹底し、生徒の授業に取り組む意識を向上させる。	生徒指導課	【成果指標】 ・授業の出席を促す指導の対象生徒数が減少している。	○授業出席を促す指導の対象生徒数が A 10名以下である。 B 11名以上25名以下である。 C 26名以上35名以下である。 D 36名以上である。	(B)	4月～7月まで 12名	・今年度は、学習習慣がまだ定着していない生徒がやや多い傾向にある。今後、教職員が一丸となり、授業への出席を促す指導を徹底したい。	○2月末に集計
2	卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み、生徒の希望進路を実現する。	進路課 学年	【成果指標】 ・年度末には全卒業生の進路先が内定している。	○年度末における全卒業生の進路内定率が A 95%以上である。 B 85%以上95%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。				○3月に調査
	○生徒が、進路の目標をできるだけ早い時期に設定できるようにキャリア教育を進め、望ましい職業観と社会性の育成を図る。 ○年度末に卒業予定の生徒が、遅くとも6月には進路目標を持てるように指導する。また、6月に進路目標を持てなかった生徒には継続的に指導する。	進路課 学年	【成果指標】 ・年度末に卒業予定の生徒が、進路目標を持っている。	○年度末に卒業予定の生徒で、進路目標を持つものの割合が A 90%以上である。 B 75%以上90%未満である。 C 70%以上75%未満である。 D 70%未満である。	A	90% 卒業予定者61名 進学 27名 就職 28名 未定 6名	・数値的には90%であるが、就職希望者の中には、十分な活動ができていない生徒が多く見られる。将来の自分の在り方をしっかりと考えられるよう指導に尽力したい。	○6月、11月に調査
3	規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。	総務課	【成果指標】 ・保護者が学年別保護者説明会、保護者懇談会に少なくとも1回は出席している。	○学年別保護者説明会、保護者懇談会に1回は参加した保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上85%未満である。 C 65%以上75%未満である。 D 65%未満である。	(C)	4月～7月の調査では、362名のうち延べ258名の保護者が懇談会に参加(1年:131名、2年:26名、3年:64名、4年:37名)	・5月に新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、保護者が来校しやすくなった。4～5月期(48名)より6～7月期(210名)に、たくさんの保護者が懇談会に参加した。今後の情報発信の仕方やその内容を工夫改善することで、学校行事や懇談会への参加者を増やしていきたい。	○5月、7月9月、11月、1月、3月に調査
	○教職員は、広報活動をより充実させるため、ホームページによる情報発信に取り組み、保護者や地域に開かれた学校づくりを推進する。これにより、保護者に学校の様子を把握してもらう。	生徒指導課	【成果指標】 ・いじめが発生しない。	○いじめの発生件数が A 重大事案が0件かつ認知件数が0件である。 B 重大事案が0件かつ認知件数が5件以下である。 C 重大事案が0件かつ認知件数が6件以上10件以下である。 D 重大事案が1件以上または認知件数が11件以上である。	(A)	7月現在、いじめの発生件数、認知件数ともに0件	・7月に実施した「いじめアンケート」でのいじめの認知件数は0件であったが、いじめにつながりそうな事案は起きており、今後も未然防止、早期発見に努めたい。	○9月末、1月末に集計
	○健康診断や個別の指導を通じて、生徒の歯・口の健康づくりに重点的に取り組む。	保健課	【成果指標】 ・歯科検診で受診勧告された生徒が受診している。	○歯科検診の受診勧告後、受診した生徒が A 40%以上である。 B 30%以上40%未満である。 C 20%以上30%未満である。 D 20%未満である。	(D)	15.3% 受診勧告170名 受診報告26名	・7月現在の受診率は、15.3%と低調であった。夏季休業前に2度目の受診勧告を実施した。休業明けの報告を待ちながら、さらに個別に受診の必要性について指導をしていく。	○2月に集計
	○効果的な支援を実践するために、学年会、養護教諭、外部機関等との連携による組織的支援体制を整備し、対象生徒を適時に支援する。	保健課 相談室	【努力指標】 ・教職員が個別の教育支援計画を作成することができる。	○個別の教育支援計画について、生徒に合った具体的な目標を立てることができると自己評価した教職員の割合が、 A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	B	できた13.5% まあまあできた67.6% 合計81.1%	・毎年1回の研修会を重ねてきた結果、個別の教育支援計画の理解や生徒にあった具体的な目標を立てることができる割合が増えたと考えられる。	○7月、1月に調査
4	スポーツ活動や文化活動、ボランティア活動等とおして自主・自律・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。	生徒会課	【成果指標】 ・生徒が部活動に加入している。	○部活動に加入している生徒の割合が A 45%以上である。 B 35%以上45%未満である。 C 30%以上35%未満である。 D 30%未満である。	C	5月の集計結果(生徒数362名) 運動部 男子33名、女子29名 文化部 男子34名、女子31名	・部活動に加入している生徒の割合は、一昨年32.2%(97名)、昨年31.1%(97名)と推移してきたが、今年度5月は34.5%(125名)(運動部17.1%、文化部18.0%)となった。	○5月、10月に集計
	○オリエンテーションや全校集会時に、生徒会活動や学校行事等について、分かりやすく説明し、興味・関心を持たせ主体的な参加を促す。	生徒会課	【満足度指標】 ・生徒が、生徒会活動や学校行事に満足している。	○生徒会活動・学校行事に対する生徒の満足度が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。				○10月、12月に調査
5	発達障害による困難さを抱える生徒を対象に、通級指導などによる自立活動を通して、自尊感情を高めるとともに、障害の改善または克服を目指す。	通級指導推進	【成果指標】 ・教職員が、発達障害のある生徒に、個に応じた具体的な支援の場面をもつことができている。	○発達障害のある生徒に、個に応じた具体的な支援の場面をもつことができたとする教職員の割合が A 85%以上である。 B 75%以上85%未満である。 C 60%以上75%未満である。 D 60%未満である。	A	できた29.7% まあまあできた56.8% 合計86.5%	・個別の教育支援計画作成会や効果のあった支援についての情報共有の場面があり、具体的な支援につながったと考えられる。	○7月、1月に調査
6	効率的かつ効果的な業務遂行のため、組織的な業務改善に努める。	教頭	【努力指標】 ・教職員が、ICT機器等を用いて、業務改善につながる工夫をしている。	○ICT機器等を用いて、業務改善につながる工夫をすることができたと自己評価した教職員が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。	B	肯定的な評価73.0% できた 13名 まあまあできた 14名	・今年度、欠席連絡や授業アンケートなどが電子化され、教員の日常的な校務におけるICT化が一層推進されている。このような取組の積み重ねにより、教員の時間外勤務時間の減少につながることを期待したい。	○7月、1月に調査

